

平松邦夫さん「送別会」

先日、大阪から高松に移られた元大阪市長・平松邦夫さん「送別会」に途中まで参加した。写真は壇上で並ぶ平松さんと浪速の経済人・中野雅司さん。お二人には、大阪に転居してからお世話になった。

平松さんは毎日放送アナウンサーなどとして活躍され、2007年の大阪市長選に立候補して、11年まで市長をつとめた。図書館で平松さんの立候補から当選、そして市長時代の本を読んだことがあるが、橋下徹ら「維新」と激しい攻防があり、ご苦労も多かったと思う。送別会でも、当時の混乱する政治状況やエピソードが参加者から語られた。



私にとって忘れられないのが、2度目の「大阪市廃止・特別区設置」の是非を問う、住民投票の頃である。平松さんと中野さんが共同代表になり、大阪市存続の市民団体がつくり、私も参加した。写真は御堂筋パレードの先頭に立つ平松さん。私も御堂筋を歩いたが、恥ずかしながらコロナ禍で足腰が弱り、なんとか終点にたどりついた。

平松さんは大阪市立大前で、学生に大阪市廃止反対をアピールした。私も一緒に学生さんにチラシを配った。コロナ禍で住民投票が強行されたが、市民は大阪市廃止に再び「ノー」を突きつけた。市民運動の力を実感したものだ。



だが、大阪維新の会はその後も大阪市を骨抜きにする策動を続けた。「大阪府市一体化」を喧伝して、夢洲IRカジノや万博など巨大開発を強引に推し進めた。平松さんと中野さんは、夢洲IRカジノについても、市民団体の中心として活躍されてきた。

とりわけ平松さんは維新から目の敵にされ、陰湿で不当な攻撃を受けてきた。あらためて維新という政党に腹が立った。送別会でも、攻撃の一端を知ることができた。維新はそれだけ平松さんを恐れていたわけだ。

じつは、私は平松さんと同じ歳である。5年半余り前、名古屋から大阪に転居して、まずは中野さん、それから平松さんと親しくなり、お二人から「やる気」をもらってきた。平松さんからは、メディアについても多くの示唆をもらった。平松さんは私の投稿などを読んでいるという。私は残された人生を微力ながら、大阪のために力を尽くしていきたいと思いを新たにして、会場を去った。

(2023年7月15日)